



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1930, 14(6): 472-472

ISSUE DATE:

1930-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183839>

RIGHT:

一八九八ありて平均深度九〇米一、次は由良海峡で横断面積〇平方新三一〇八一、平均深度五五米九あるが速吸瀬戸に比べると甚だ小さい。鳴門や早瀬瀬戸に至つては甚しく小さい。それで瀬戸内海の水の大部分は速吸及び由良の二海峡から出入することが明かである。

○地理學團第二回講演會開催 地球學團は東京

地質學會及び日本岩石礦物礦床學會と聯合して昭和六年四月四日(土)同五日(日)の兩日を期し京都帝國大學内に第二回講演會を開催することになった。猶四月六日(月)には奈良地方に見學旅行を行ふ豫定である。學團員にして講演希望の方は演題及び講演所要時間を來る二月二十日までに地球學團に申込むか又は二月末日までに東京帝國大學理學部地質學教室内東京地質學會に申込まれたい。學團員が奮つて各自の研究の成果を發表されんことを期待する。猶開催の時刻、場所等に就いては適當な時に豫告する。

質疑應答

問 支那の新しい省名と省城。

答 舊い制度では十八省と東三省及新疆省を加へて二十二省であつたが、國民黨が天下を取つて、南京を首府としてから、六つの新省が加はつて、二十八省となつた。

一、察哈爾省、一九二八年九月五日中央政治會議で特別區域であつたのを改省、同時に以前直隸(今河北省)の口北道十縣が本省に加はつた、省城張家口。

二、熱河省、これも一九二八年九月五日、一省となる面積三十八萬平方里省城承德(熱河)

三、綏遠省、內蒙古の特別區域で、これも右二省と同時に省とする、舊察哈爾特別區域の中、興和、涼城、丰鎮、陶林の四縣がこの省に入つた、百萬七千方里、省城歸綏(歸化城)

四、西康省、一九一四年六月川邊特別區となり一九二八年九月五日、省となる、面積百三十萬平方里、省城康定(打箭爐)

五、青海省面積二百五十六萬二千五百平方里、これは今度甘肅省の中から西寧道八縣を加へて改めて西寧省省城とした

六、寧夏省、一九二八年十月十七日、甘肅の寧夏道をさき、これに額濟納土爾渾特旗及阿拉善額魯特旗を加へ八十一萬平方里の省となる。省城寧夏

七、甘肅省はために狭くなつて縣數六十四となる。

八、河北省、直隸省の新名である、省城北平、一九二八年八月に改まる。

九、遼寧省 奉天の新名で一九二九年四月二十三日に改名した、同時に奉天は瀋陽と改名した。

一〇、江蘇省の南京は首府となつたから、一九二八年七月以後、鎮江が江蘇の省城となつて、丹徒縣を鎮江縣と改名した